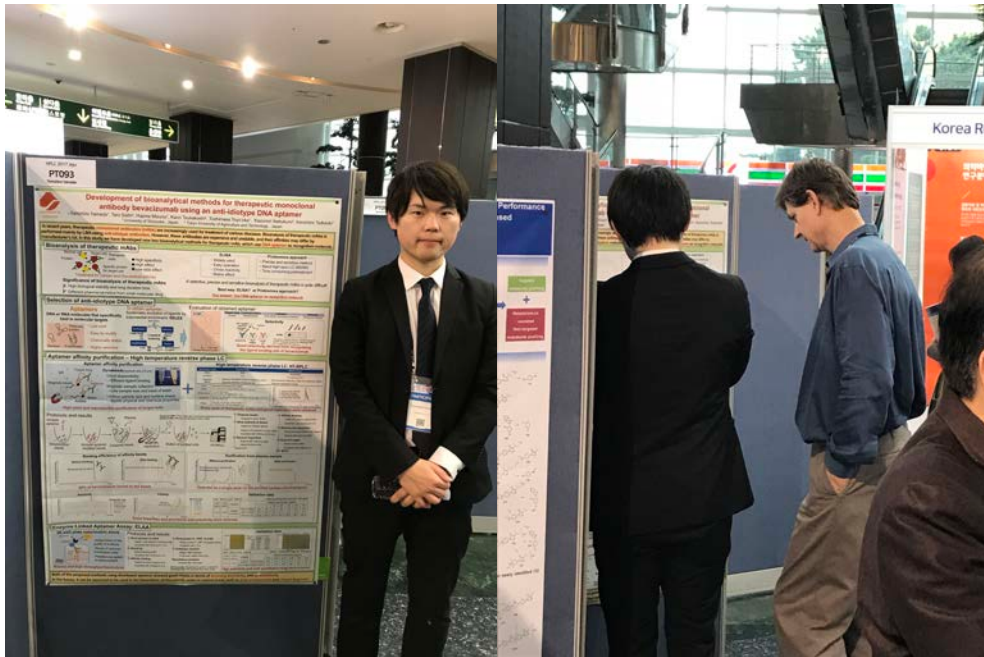


## HPLC 2017 Jeju にて口頭発表とポスター発表

2017年11月5日から9日まで韓国、済州特別自治道にて開催されたHPLC2017 Jejuに参加した。本学会では、分離科学の視点からHPLCや質量分析、情報処理技術などを駆使した最新研究が紹介されており、特に口頭発表ではいずれの会場でも白熱した議論が展開されていたのが強く印象に残った。私は「Development of bioanalytical methods for therapeutic monoclonal antibody bevacizumab using an anti-idiotypic DNA aptamer」という演題で口頭発表とポスター発表の両方を行った。特にポスター発表においては、諸外国の分析科学者の方々から多数の質問を頂き、有意義なディスカッションを行うことができた。英語での研究紹介には苦勞したが、どの国の方も熱心に説明を聞いてくださり、喜びを感じると共に大きな達成感を得ることができた。しかし、相手とのコミュニケーションをより円滑にするために語学力向上の必要性を痛感させられた。また、本会のSpecial lectureとしてノーベル化学賞受賞者であるStoddart教授の発表も拝聴することができ、世界最高レベルの研究内容のみならず、人生をどう過ごすかについて話された博士の講演は、自身の将来を考えるうえで貴重な財産となった。5日間の国際学会において、世界の最先端研究に刺激を受け、自身の研究の世界での立ち位置を知り、その成果発表を通して各国の研究者と議論を交わせたことは非常に大きな収穫となった。今回、このような発表の機会をいただいた本学の国際学会発表支援事業、関係者の皆様に深く御礼申し上げます。



薬食生命科学総合学府 薬科学専攻 整体機能分子分析学講座

博士前期課程 1年 山田 朋宏